

弘前市文化芸術振興計画
策定に係るアンケート
結果報告書（案）
【文化芸術団体編】

令和3年〇月

弘 前 市

目次

はじめに

《調査の概要》 . . . P.1

《本報告書の読み方》 . . . P.1

《回答者構成表》 . . . P.2

調査結果概要 . . . P.5

回答集計結果

◆団体の活動状況について（問1～問11） . . . P.6

◆弘前市や団体が担う役割について（問12～問14） . . . P.17

はじめに

《調査の概要》

1. 調査の目的

この調査は、文化芸術に関する興味関心や文化芸術活動の状況、行政や文化芸術団体が担うべき役割について各団体が抱えている意識・思いを把握し、計画に反映するため実施しました。

2. 調査の対象

弘前市内の文化施設（弘前市民会館、弘前文化センター、百石町展示館、岩木文化センター、弘前市民文化交流館）の利用団体から抽出し、対象としました。

3. 調査の方法

令和3年1月8日に調査対象者へ調査票を郵送で配布し、同封した返信用封筒により、1月22日（金）までの期限で回収しました。

4. 回収結果

調査対象者157団体（所在不明による未達分2団体を除いて算出）中、回答者は98団体で、回収率は62.4%でした。

5. 集計

文化芸術分野別、活動年数別（区分）、会員数別（区分）、平均年齢別（区分）、市内居住会員の割合別（区分）、主な活動場所別で集計しました。

《本報告書の読み方》

1. 表中の主値は、すべて回答者の割合となっています。

2. 結果数値（%）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表示していますが、回答者の合計は、100%になるように端数調整をしています。

3. 表中に「-」とあるのは、回答者がいないことを示します。

4. 回答者に複数の回答を求める設問の回答合計（Multiple Total）は、100%を超えています。

≪回答者構成表≫

区 分		割 合
文化芸術 分 野	吹奏楽、オーケストラ、アンサンブル、ピアノなど 楽器を使用した活動	15団体 (10.1%)
	合唱など楽器を使用しない活動	14団体 (9.4%)
	ポップス、ロック、演歌などの歌手・グループ活動	3団体 (2%)
	美術（絵画、彫刻、工芸、写真、現代アートなど）	23団体 (15.4%)
	映像制作（映画、アニメーション、動画投稿など）	2団体 (1.3%)
	演劇（オペラ、ミュージカルを含む）	8団体 (5.4%)
	舞踊（バレエ、ダンスなど）	13団体 (8.7%)
	生活文化（茶道、華道、書道、盆栽など）	26団体 (17.5%)
	文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）	12団体 (8.1%)
	津軽の伝統芸能（津軽三味線、民謡、手踊り、獅子 舞、津軽神楽など）	6団体 (4%)
	その他の伝統芸能（能・狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃、 雅楽、日本舞踊など）	6団体 (4%)
	芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才など）	2団体 (1.3%)
	国民娯楽（囲碁、将棋など）	1団体 (0.7%)
	津軽の伝統工芸技術の保存・継承	5団体 (3.4%)
	その他の伝統工芸技術の保存・継承	3団体 (2%)
	歴史的な街並み、文化財、遺跡などの保存	—
食文化（りんご、和菓子、郷土料理など）の保存・ 継承	—	

	その他	7団体 (4.7%)
	無回答	3団体 (2%)

区 分		割 合
活動年数	5年未満	4団体 (4.1%)
	5年～9年	9団体 (9.2%)
	10年～14年	3団体 (3%)
	15年～19年	14団体 (14.3%)
	20年～24年	9団体 (9.2%)
	25年～29年	2団体 (2%)
	30年以上	57団体 (58.2%)

区 分		割 合
会 員 数	5人未満	4団体 (4.1%)
	5人～9人	15団体 (15.3%)
	10人～19人	22団体 (22.5%)
	20人～29人	11団体 (11.2%)
	30人～49人	12団体 (12.2%)
	50人以上	34団体 (34.7%)

会員の 平均年齢	20歳代以下	10団体 (10.2%)
	30歳代	2団体 (2%)
	40歳代	10団体 (10.2%)
	50歳代	20団体 (20.4%)
	60歳代	32団体 (32.7%)
	70歳以上	24団体 (24.5%)
市内居住 会員の 割合	50%未満	11団体 (11.2%)
	50%以上75%未満	17団体 (17.4%)
	75%以上	70団体 (71.4%)

区 分		割 合
主 な 活動場所	市内文化施設（市民文化交流館を含む。）	64団体 (65.3%)
	市内地区公民館	2団体 (2%)
	市内屋外施設（公園等）	2団体 (2%)
	市外の施設等	—
	会員の自宅等	12団体 (12.2%)
	その他	13団体 (13.3%)
	無回答	5団体 (5.1%)

調査結果概要

ここでは、今回の調査により明らかとなった傾向・団体の要望についてまとめています。

○子どもたちが文化芸術に触れる機会について

全体的な傾向としては、子どもたちに文化芸術に親しんでもらうことが重要視されており、その機会づくりや文化芸術の普及、教育活動を行政・団体双方が協力して促進していくことが求められています。

○会員の減少・高齢化、後継者不足について

会員の平均年齢が60歳代以上の団体の割合が全体の5割超を占めています。

団体活動を継続するには若い世代の取り込みが必要となるため、未活動者や未加入者向けのPR活動を行なっている団体の割合は全体の7割超となっていますが、一方で、新規加入者や後継者の不足を課題として挙げる団体が多い結果となりました。

○地域の文化芸術の発信・周知について

地域の文化芸術に関する情報の発信・周知について、団体が行ないやすい支援体制の構築や発信・周知できる場の創出等の工夫が求められています。

○文化芸術活動経費について

年間活動経費が49万円以下で活動している団体が全体の6割超となり、活動経費を会員の年会費で賄う団体は全体の5割超となっています。

活動資金の不足を挙げる団体も多く、会員の減少によってますます資金不足に拍車がかかる中で、文化芸術活動で使用する施設の使用料の減免が求められています。

○活動の場・発表の場の不足について

市内に活動の場・発表の場が少ないと感じる団体が多く、多くの団体が活動・発表できるような工夫・調整が求められています。

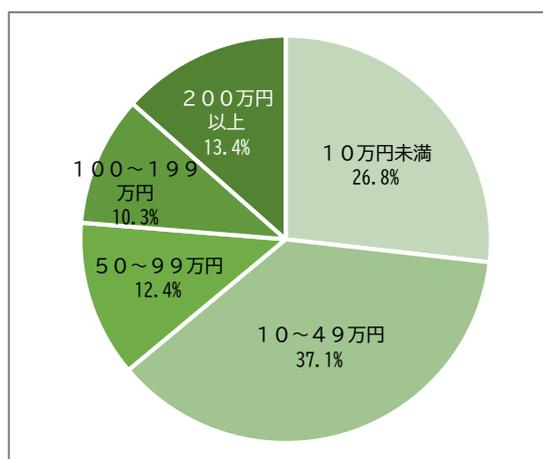
回答集計結果

◆団体の活動状況について

問1 貴団体は、令和元年の1年間の活動にどれくらいの経費を必要としましたか。(回答は1つ)

「10万円未満 (26.5%)」「10～49万円 (36.7%)」と答えた団体が全体の6割超を占めました。

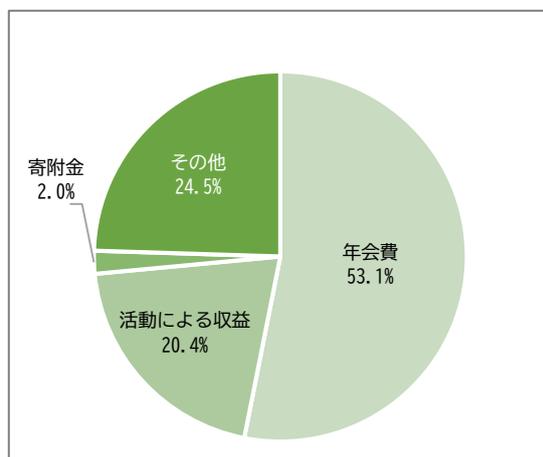
選択肢	回答数	割合
10万円未満	26	26.8%
10～49万円	36	37.1%
50～99万円	12	12.4%
100～199万円	10	10.3%
200万円以上	13	13.4%
合計 (無回答除く)	97	100%



問2 貴団体は、活動経費を主にどのように賄っていますか。(回答は1つ)

「年会費 (53.1%)」と答えた団体が全体の5割超を占めました。

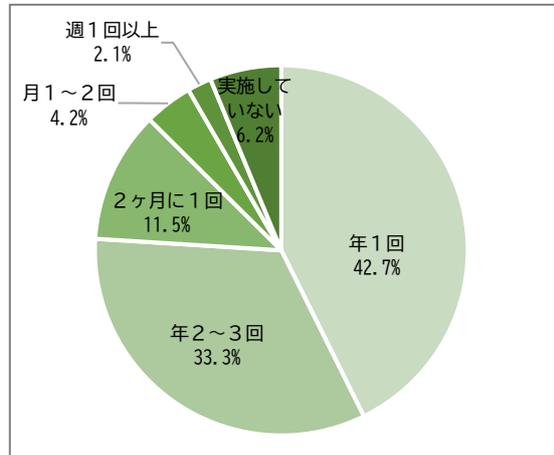
選択肢	回答数	割合
年会費	52	53.1%
活動による収益	20	20.4%
寄附金	2	2.0%
その他	24	24.5%
合計	98	100%



問3 貴団体は、令和元年の1年間で、成果発表会や展示会等をどの程度実施しましたか。(回答は1つ)

「年1回 (41.8%)」「年2～3回 (32.7%)」と答えた団体が全体の7割超を占めました。

選択肢	回答数	割合
年1回	41	42.7%
年2～3回	32	33.3%
2ヶ月に1回	11	11.5%
月1～2回	4	4.2%
週1回以上	2	2.1%
実施していない	6	6.2%
合計（無回答除く）	96	100%

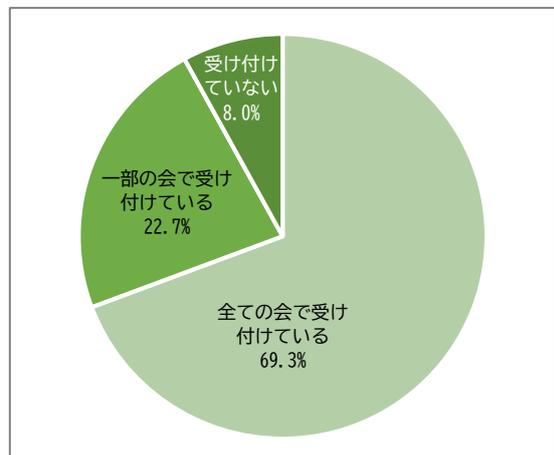


問3-2 問3で①～⑤のいずれかを選択した方にお聞きします。

貴団体の成果発表会や展示会等は一般の方（会員以外）の参加（観覧、聴講）も受け付けていますか。(回答は1つ)

「全ての会で受け付けている (69.3%)」「一部の会で受け付けている (22.7%)」と答えた団体が全体の9割超を占めました。

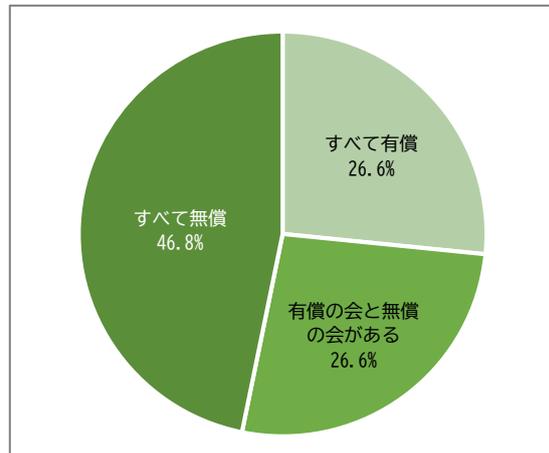
選択肢	回答数	割合
全ての会で受け付けている	61	69.3%
一部の会で受け付けている	20	22.7%
受け付けていない	7	8.0%
合計（無回答除く）	88	100%



問3-3 問3-2で①もしくは②のいずれかを選択した方にお聞きします。
 一般の方（会員以外）の参加（観覧、聴講）を受け付ける場合、それは有償で
 しょうか、無償でしょうか。（回答は1つ）

「すべて無償（46.8%）」と答えた団体が全体の5割弱を占めました。

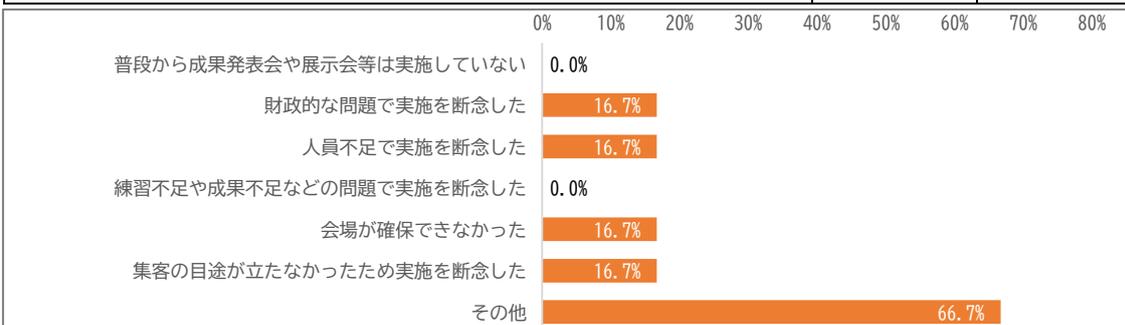
選択肢	回答数	割合
すべて有償	21	26.6%
有償の会と無償の会 がある	21	26.6%
すべて無償	37	46.8%
合計（無回答除く）	79	100%



問3-4 問3で「⑥ 実施していない」を選択した方にお聞きします。
 実施していない理由はなんですか。（回答はいくつでも）

回答数が少なかったため、特徴的な傾向は表れなかった。

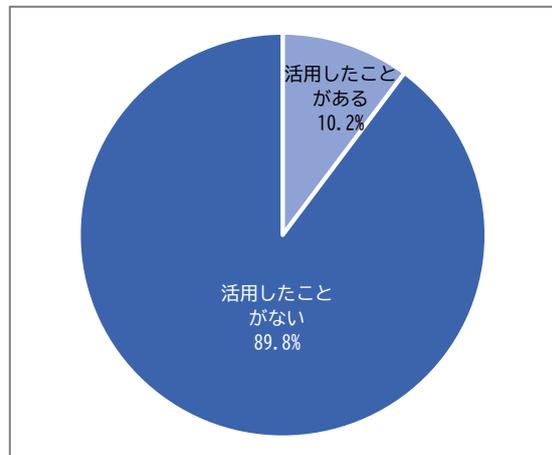
選択肢	回答数	割合
普段から成果発表会や展示会等は実施していない	0	—
財政的な問題で実施を断念した	1	16.7%
人員不足で実施を断念した	1	16.7%
練習不足や成果不足などの問題で実施を断念した	0	—
会場が確保できなかった	1	16.7%
集客の目途が立たなかったため実施を断念した	1	16.7%
その他	4	66.7%
合計	8	—
回答者数（無回答除く）	6	—



問4 貴団体は今までオンライン配信を活用したことはありますか。(回答は1つ)

「活用したことがある」と答えた団体の割合は10.2%となり、「活用したことがない」と答えた団体の割合は89.8%となりました。

選択肢	回答数	割合
活用したことがある	10	10.2%
活用したことがない	88	89.8%
合計	98	100%

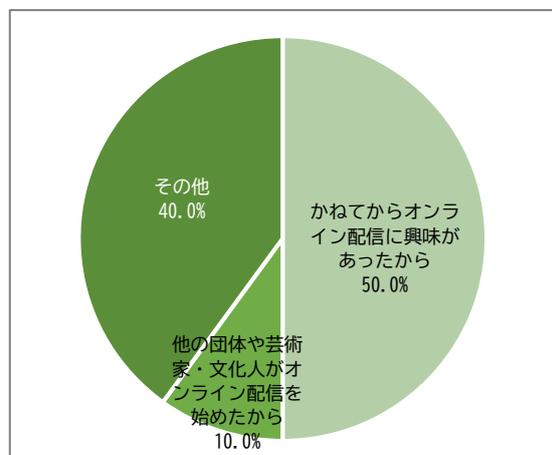


問4-2 問4で「① 活用したことがある」を選択した方にお聞きします。

あなたがオンライン配信を活用した主なきっかけは何ですか。(回答は1つ)

回答数が少なかったため、特徴的な傾向は表れなかった。

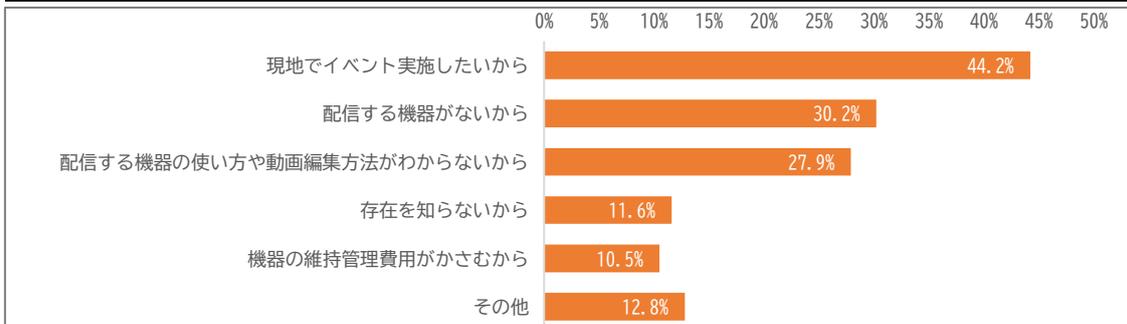
選択肢	回答数	割合
かねてからオンライン配信に興味があったから	5	50.0%
他の団体や芸術家・文化人がオンライン配信を始めたから	1	10.0%
他の団体からすすめられて	0	0.0%
たまたま配信動画等を見つけたから	0	0.0%
その他	4	40.0%
合計（無回答除く）	10	100%



問4-3 問4で「② 活用したことがない」を選択した方にお聞きします。
その理由は何ですか。(回答はいくつでも)

「現地でイベント実施したいから (44.2%)」と答えた団体が最も多く、次いで「配信する機器がないから (30.2%)」となりました。

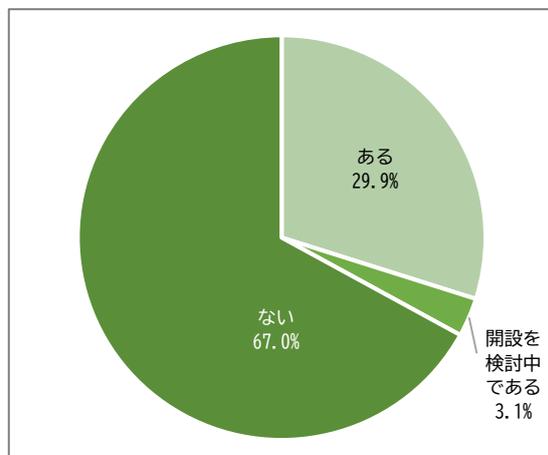
選択肢	回答数	割合
現地でイベント実施したいから	38	44.2%
配信する機器がないから	26	30.2%
配信する機器の使い方や動画編集方法がわからないから	24	27.9%
存在を知らないから	10	11.6%
機器の維持管理費用がかさむから	9	10.5%
合計	118	—
回答者数 (無回答除く)	86	—



問5 貴団体は、専用のホームページ (facebook、twitter等のSNSを含む) をお持ちですか。(回答は1つ)

「ある」と答えた団体が29.9%、「開設を検討中である」と答えた団体が3.1%、「ない」と答えた団体が67%となりました。

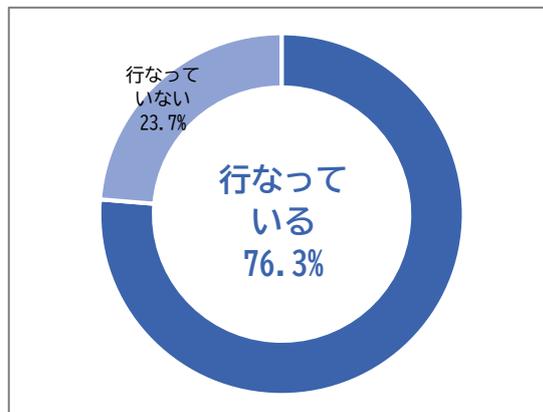
選択肢	回答数	割合
ある	29	29.9%
開設を検討中である	3	3.1%
ない	65	67%
合計 (無回答除く)	97	100%



問6 貴団体は、未活動者や未加入者向けのPR活動を行なっていますか。(回答はいくつでも)

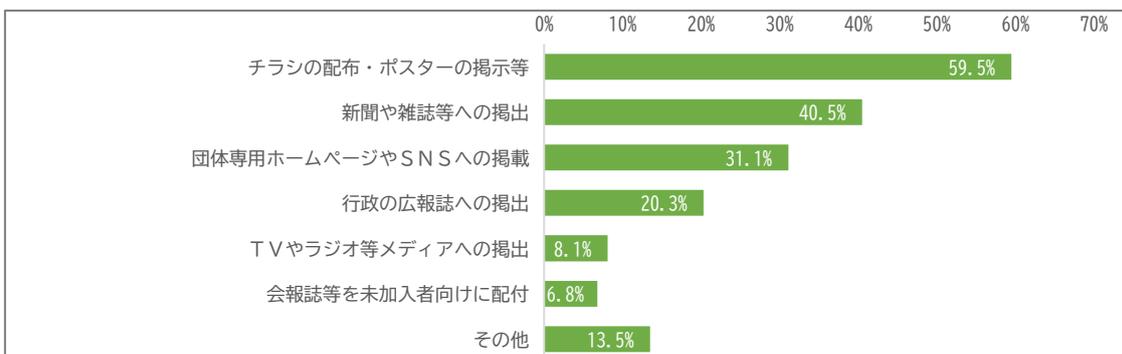
何らかのPR活動を「行なっている」と答えた団体の割合は76.3%となり、「行なっていない」と答えた団体の割合は23.7%となりました。

選択肢	回答数	割合
行なっている	74	76.3%
行なっていない	23	23.7%
合計（無回答除く）	97	100%



行なっている活動内容では、「チラシの配布・ポスターの掲示等（59.5%）」と答えた団体が最も多く、次いで、「新聞や雑誌等への掲出（40.5%）」「団体専用ホームページやSNSへの掲載（31.1%）」となりました。

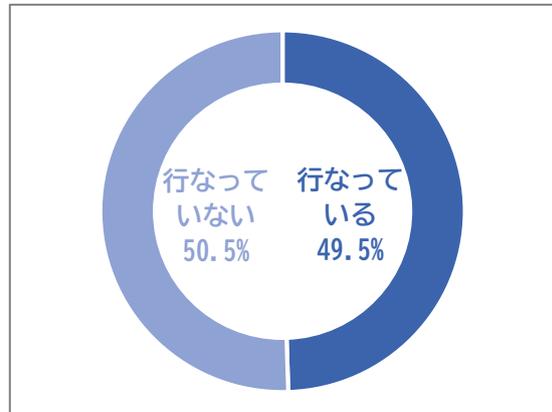
選択肢	回答数	割合
チラシの配布・ポスターの掲示等	44	59.5%
新聞や雑誌等への掲出	30	40.5%
団体専用ホームページやSNSへの掲載	23	31.1%
行政の広報誌への掲出	15	20.3%
TVやラジオ等メディアへの掲出	6	8.1%
会報誌等を未加入者向けに配付	5	6.8%
その他	10	13.5%
合計	133	—
回答者数（無回答除く）	74	—



問7 貴団体は、後継者育成を目的とした活動を行なっていますか。(回答はいくつでも)

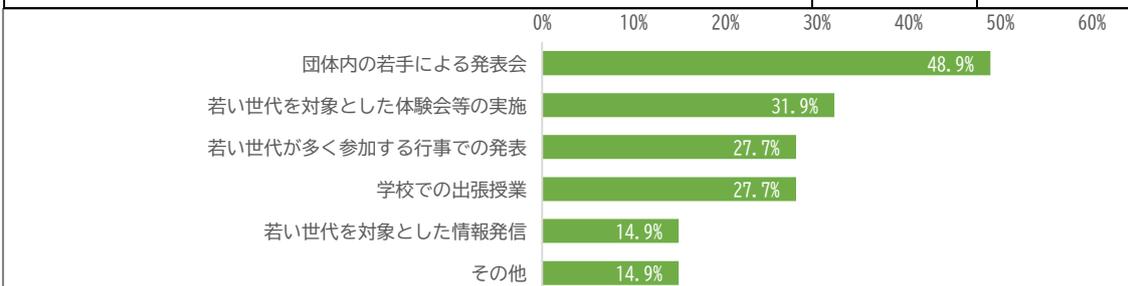
何らかの後継者育成活動を「行なっている」と答えた団体は 49.5%、「行なっていない」と答えた団体は 50.5%と、ほぼ半数ずつ分かれる結果となりました。

選択肢	回答数	割合
行なっている	47	49.5%
行なっていない	48	50.5%
合計（無回答除く）	95	100%



行なっている後継者育成活動内容では、「団体内の若手による発表会（48.9%）」と答えた団体が最も多く、次いで「若い世代を対象とした体験会等の実施（31.9%）」となりました。

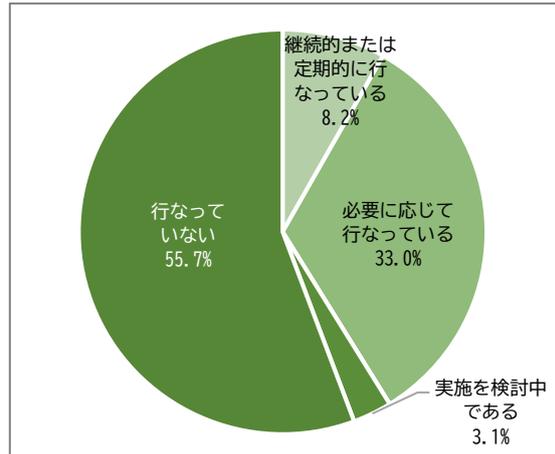
選択肢	回答数	割合
団体内の若手による発表会	23	48.9%
若い世代を対象とした体験会等の実施	15	31.9%
若い世代が多く参加する行事での発表	13	27.7%
学校での出張授業	13	27.7%
若い世代を対象とした情報発信	7	14.9%
その他	7	14.9%
合計	78	—
回答者数（無回答除く）	47	—



問8 貴団体は、他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）を行う事業や活動を行なっていますか。（回答は1つ）

「継続的または定期的に行なっている（8.2%）」「必要に応じて行なっている（33%）」と答えた団体は全体の4割となり、「行なっていない（55.7%）」と答えた団体は全体の5割超となりました。

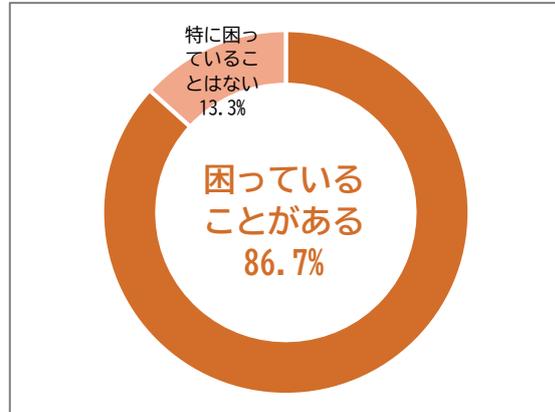
選択肢	回答数	割合
継続的または定期的に行なっている	8	8.2%
必要に応じて行なっている	32	33.0%
実施を検討中である	3	3.1%
行なっていない	54	55.7%
合計（無回答除く）	97	100%



問9 貴団体が活動するうえで困っていることは何ですか。（回答はいくつでも）

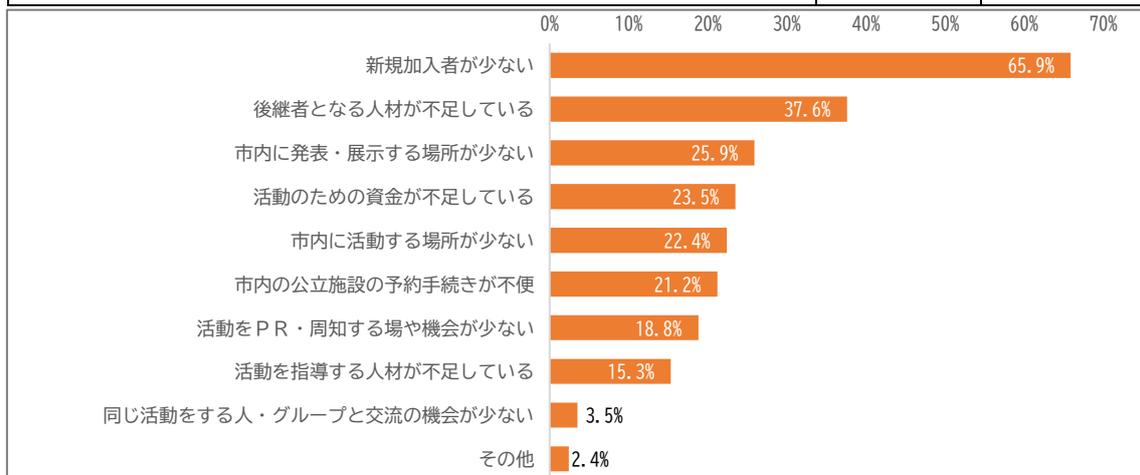
「困っていることがある」と答えた団体は 86.7%となり、「特に困っていることはない」と答えた団体は 13.3%となりました。

選択肢	回答数	割合
困っていることがある	85	86.7%
特に困っていることはない	13	13.3%
合計	98	100%



困っている内容では、「新規加入者が少ない（65.9%）」と答えた団体が最も多く、次いで「後継者となる人材が不足している（37.6%）」となりました。

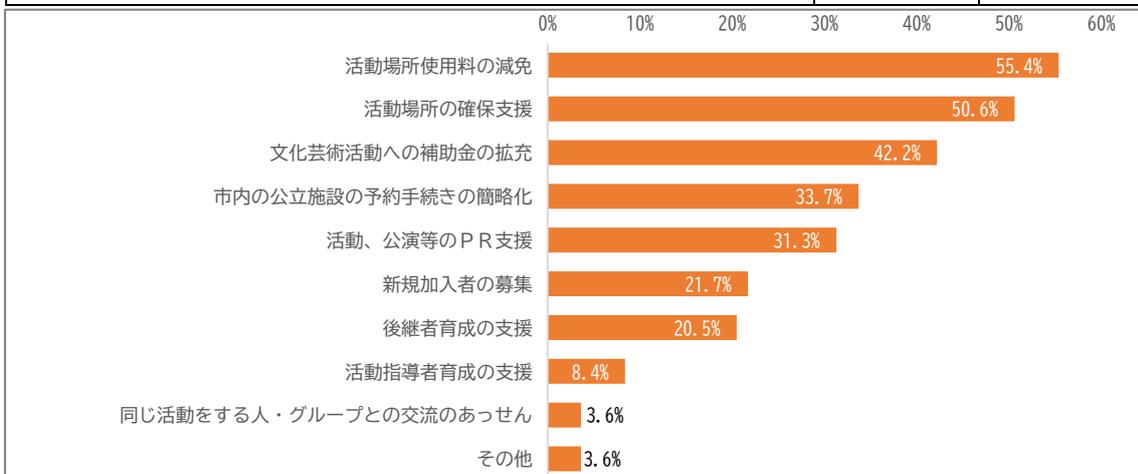
選択肢	回答数	割合
新規加入者が少ない	56	65.9%
後継者となる人材が不足している	32	37.6%
市内に発表・展示する場所が少ない	22	25.9%
活動のための資金が不足している	20	23.5%
市内に活動する場所が少ない	19	22.4%
市内の公立施設の予約手続きが不便	18	21.2%
活動をPR・周知する場や機会が少ない	16	18.8%
活動を指導する人材が不足している	13	15.3%
同じ活動をする人・グループと交流の機会が少ない	3	3.5%
その他	2	2.4%
合計	201	—
回答者数（無回答除く）	85	—



問10 貴団体が活動するうえで市に支援してほしいことは何ですか。(回答はいくつでも)

「活動場所使用料の減免（55.4%）」と答えた団体が最も多く、次いで「活動場所の確保支援（50.6%）」、「文化芸術活動への補助金の拡充（42.2%）」となりました。

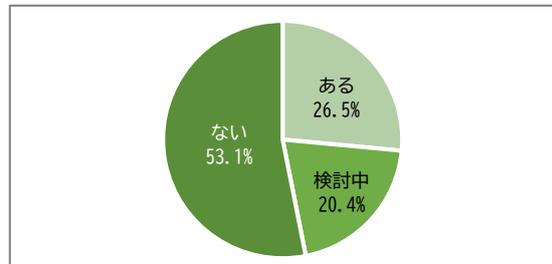
選択肢	回答数	割合
活動場所使用料の減免	46	55.4%
活動場所の確保支援	42	50.6%
文化芸術活動への補助金の拡充	35	42.2%
市内の公立施設の予約手続きの簡略化	28	33.7%
活動、公演等のPR支援	26	31.3%
新規加入者の募集	18	21.7%
後継者育成の支援	17	20.5%
活動指導者育成の支援	7	8.4%
同じ活動をする人・グループとの交流のあっせん	3	3.6%
その他	3	3.6%
合計	238	—
回答者数（無回答除く）	96	—



問11 貴団体の成果発表会や展示会等では、障がいのある人も行きやすいような工夫はありますか。(回答は1つ)

「ある」と答えた団体の割合は26.5%、「検討中」と答えた団体の割合は20.4%、「ない」と答えた団体の割合は53.1%となりました。

選択肢	回答数	割合
ある	29	26.5%
検討中	20	20.4%
ない	52	53.1%
合計	98	100%



「① ある」を選択された方は、具体的な工夫内容を以下にご記入ください。

主な回答は以下のとおりです。

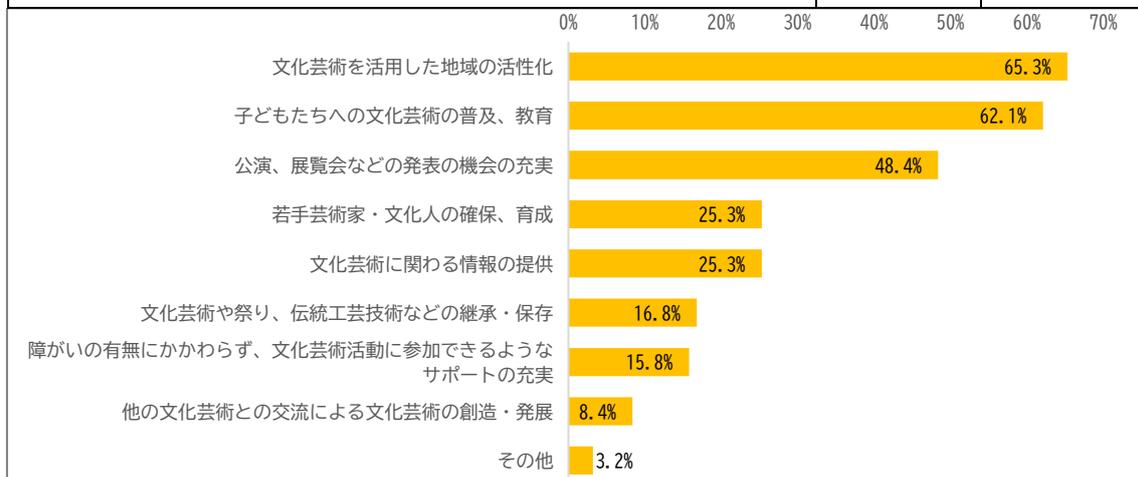
- ・障がいのある人が使用可能な場所を使用する努力をしている。
- ・障がい者用の座席の確保と付き添い人の無料入場等。
- ・障がい者と健常者の交流大会を長年開いている。
- ・聴覚障害者はテキスト無料。身体障害者様は介添人お一人無料。
- ・チケット購入時に申し入れがあった際には、その体制を組み入れて受付や会場系を配置して対応にあたるようにしている。来場時に判明した場合はその場に居る手すきの者がサポートに入れるようなら体制を推進しており、それが可能な状態で運営されている。
- ・会員の中に車いすを使用されている方があり、練習や発表会の時には、それを第一に考えている。会員に障がいのある人がいることが行きやすさにつながるのでは。

◆文化芸術振興において、弘前市や団体が担う役割について

問12 貴団体として、取り組んでいきたいことや担っていききたいと思う役割は次のうちどれですか。(回答は上位3つまで)

「文化芸術を活用した地域の活性化 (65.3%)」と答えた団体が最も多く、次いで「子どもたちへの文化芸術の普及、教育 (62.1%)」「公演、展覧会などの発表の機会の充実 (48.4%)」となりました。

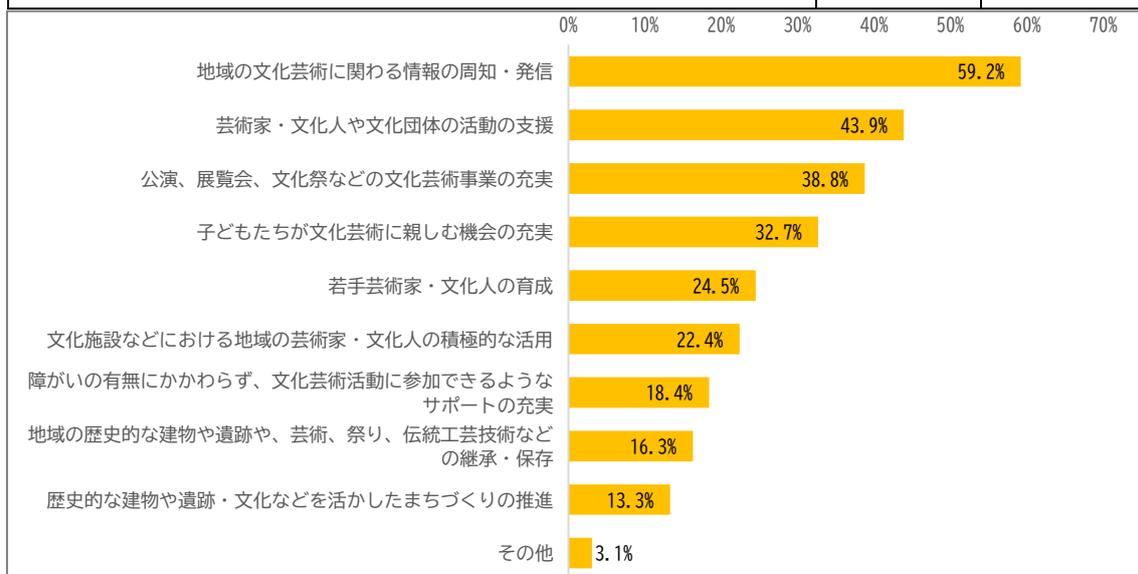
選択肢	回答数	割合
文化芸術を活用した地域の活性化	62	65.3%
子どもたちへの文化芸術の普及、教育	59	62.1%
公演、展覧会などの発表の機会の充実	46	48.4%
若手芸術家・文化人の確保、育成	24	25.3%
文化芸術に関わる情報の提供	24	25.3%
文化芸術や祭り、伝統工芸技術などの継承・保存	16	16.8%
障がいの有無にかかわらず、文化芸術活動に参加できるようなサポートの充実	15	15.8%
他の文化芸術との交流による文化芸術の創造・発展	8	8.4%
その他	3	3.2%
合計	257	—
回答者数 (無回答除く)	95	—



問13 貴団体は、弘前の文化芸術を振興するために、行政が担うべき役割はどのようなことだと思いますか。(回答は上位3つまで)

「地域の文化芸術に関わる情報の周知・発信 (59.2%)」と答えた団体が最も多く、次いで「芸術家・文化人や文化団体の活動の支援 (43.9%)」「公演、展覧会、文化祭などの文化芸術事業の充実 (38.8%)」「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実 (32.7%)」となりました。

選択肢	回答数	割合
地域の文化芸術に関わる情報の周知・発信	58	59.2%
芸術家・文化人や文化団体の活動の支援	43	43.9%
公演、展覧会、文化祭などの文化芸術事業の充実	38	38.8%
子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実	32	32.7%
若手芸術家・文化人の育成	24	24.5%
文化施設などにおける地域の芸術家・文化人の積極的な活用	22	22.4%
障がいの有無にかかわらず、文化芸術活動に参加できるようなサポートの充実	18	18.4%
地域の歴史的な建物や遺跡や、芸術、祭り、伝統工芸技術などの継承・保存	16	16.3%
歴史的な建物や遺跡・文化などを活かしたまちづくりの推進	13	13.3%
その他	3	3.1%
合計	267	—
回答者数（無回答除く）	98	—

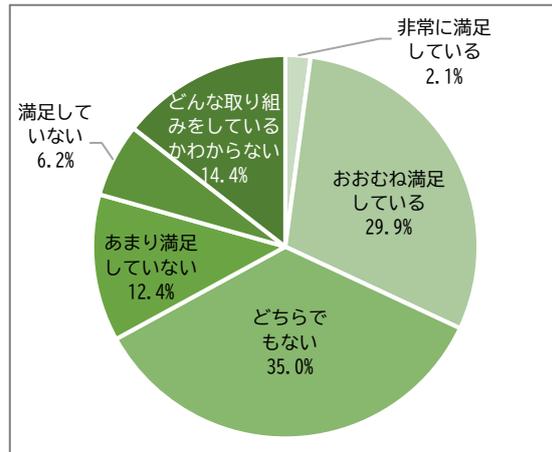


問14 (1) あなたは、市の文化芸術に対する取り組みについて、どれくらい満足していますか。(回答は1つ)

「非常に満足している (2.1%)」「おおむね満足している (29.9%)」と答えた団体の割合は30%超となり、「あまり満足していない (12.4%)」「満足していない (6.2%)」と答えた団体の割合は20%超となりました。

また、「どんな取り組みをしているかわからない」と答えた団体の割合は14.4%となりました。

選択肢	回答数	割合
非常に満足している	2	2.1%
おおむね満足している	29	29.9%
どちらでもない	34	35.0%
あまり満足していない	12	12.4%
満足していない	6	6.2%
どんな取り組みをしているかわからない	14	14.4%
合計（無回答除く）	97	100%



(2) 満足している取り組みがある場合は、代表的なものを1つご記入ください。

主な回答は以下のとおりです。

- ・文化団体への助成に力を入れてもらえていること。
- ・市民文化祭を共催事業とし、負担金を支出している事。
- ・後継者育成事業。
- ・弘前市立博物館の企画展が良い。
- ・市民文化祭に於ける文化センターの会場費は凄く助かっております。

(3) 満足していない取り組みがある場合は、代表的なものを1つご記入ください。

主な回答は以下のとおりです。

- ・総合的な文化発信の手法。
- ・宣伝（PR）や前売券の販売など協力してほしい。
- ・活動場所の減少。
- ・青森や八戸と比較して美術展地場があまりにも少ない。
- ・活動場所の確保（広さ、天井高、展示のしやすさ）。
- ・藤田記念庭園の和館・洋館の水まわりの整備。
- ・美術館を何度も鑑賞できるようにしてほしい。
- ・市民団体に対しての施設・設備の減免措置が不十分である（他都市と比較して）。
- ・市民文化祭の見直し等。
- ・活動への資金援助。
- ・立志伝中の人物の紹介。
- ・作曲コンクールでの奨励応募不足。
- ・邦楽の演奏の機会がほとんどない。
- ・現時点では思いあたりません。

その他、市が取り組む文化芸術施策に対しての意見・要望。

主な回答は以下のとおりです。

【市の文化芸術施策について】

- ・市が公演等を実施する際には費用がかかるものとして単発で終わることをするのではなく、それを包括的に把えて当該公演そのものを膨らませるとともにそれを契機として次年度以降も何らかの形で育成又は補助を継続する方向で文化芸術施策に取り組まれることを望みます。
- ・弘前市は学術・文化・芸術の香りがする街と言われておりますが、その殆どは民間の活動が支えており、行政側の姿勢は消極的にしか見えません。
一例としては今回の文化センターの2年間に及ぶ改修工事で代替の施設も無いほか、一般市民目線とかけはなれたレンガ倉庫美術館、駐車場も無く、気軽に利用できるとは思えません。
人を呼び込む観光の前に、地域住民が楽しんだり、積極的に利用、活用できる、そんな弘前市を目指すことが大事と思います。
- ・①弘前市の未来を担う子供達や若い世代に光をあて、各分野で支援していることに拍手をおくる。
②教育の場を学校内限定せず、外部の活動にも積極的に参加させ、視野を広げ、技術の向上を促す。
③教育全体を俯瞰して活動する部・課を超えた「室」をつくる。
④地域の有能な人材を活用し、学校と連携して活動できるシステムを構築する。
以上は特に文化芸術、又はスポーツにおいて重要である。これにより、市全体の潜在エネルギーが活性化し、10年、20年後の市を美しく、豊かなものにするであろう。
- ・弘前ねぶたは地域の伝統文化であり、弘前市を代表する祭りである。しかし、ねぶた絵は祭りの中で山車（ダシ）を飾る絵ではなく、絵を見せる山車として存在している。単に祭りという観光だけのとらえ方だけでなく江戸の錦絵や武者絵（北斎や国芳の絵）の伝統を引き継ぐ全国最大級の絵であることは国内外に発信してほしい。
- ・①行政の行事としては活動しやすい条件を整えることで良いのですが「文化都市」を銘うつのであれば利用者への機会の提供に加え、積極的に文化を育てる面での動きがもっとあってもよいのではと思います。
②どの団体も高齢化とともに、活動を保持するのが精一杯になって来ていると思います。弘前の若い世代とどう文化活動を通して共存し文化を創造していくか、①と関連しますが考えていかなければいけないことでは・・・（もっと具体的に積極的に）と思いますが、如何でしょうか？
- ・現在、市内の小中学校に於ける楽器の演奏依頼は、県教育委員会からのものばかりで、市立小中学校について市教育委員会からのものはありません。学校の事情もあり、学力向上には役立たない事から、削除される科目は、音楽、体育が削減されているのが実情。

文化振興課から市教育委員会への依頼は無理かとは思いますが、今、若手が一番欲しい処です。

- ・弘前市は県内外の自治体と比べて文化振興の取り組みが充実していると感じています。
- ・日頃のご支援に感謝いたします。これからも弘前市の文化発展のためご尽力くださいますよう、よろしくお願いいたします。
- ・長い間市にはお世話になって参りました。そのおかげで、県内では誇れる位の実績をつみ重ねてくる事が出来ました。感謝を申し上げます。

【文化芸術の発信について】

- ・広報ひろさき等利用しより多くの市民に情報提供。毎回、シリーズで1～2の文化芸術団体の活動情報を紹介できないものでしょうか。
各団体の活動の詳細の資料は各団体に依頼、より多くの市民に、まず活動の具体的様子を知り、興味、関心を持ってもらい、それが、活性化へとつながらないでしょうか。存在を知りそれぞれの団体への入会方法等判れば、自らより積極的へ向かえると思います。
- ・弘前の多文化が集まって、弘前の名所をユニークベニューとして、イベントと映像制作及び配信をしたいです。
5年間の事業として行い、若い世代から上の世代まで交流し、外に発信できるような文化コンテンツが弘前には必要であると感じます。
- ・弘前市は「太宰治の学んだ街」としてのアピールは成功している。が、「寺山修司出生の地」としては今一だと思ふ。弘前大学への留学生の中には、寺山ファンもいて、出生地だから弘大を選んだという。が、来てみると市全体が、寺山に無関心のような気がする、とがっかりして帰国するという。市民の一人として残念に思う。

【活動場所の確保の煩雑さ、不足について】

- ・会員の会議や実技研修に公的な施設を使用したいのですが、確保が難しく、ホテルでの活動になることがあった。若い人は、仕事に忙しくて、活動に参加する時間がないのが現状である。
- ・現在、市の百石町展示館を使用しているが会場の確保が大変である。
- ・弘前版画会の創設者である、故熊谷吾良さんの全国団体の「国画会」の中心的存在であったが、その先生の懐古展も開催したいと思っけていても会場や経費の問題で無理な状況である。
弘前市民だけでなく県内、県外の多くの人たちに観ていただきたい作家であると確信します。
- ・弘前市に一般市民の作品を展示できる展示場が足りないので現状を把握し対処してほしいと思います。具体的には、パネル中心ではなく、壁面中心に展示でき、天井までの高さが4mはある展示場はほしいのです。

青森市民美術館、八戸ポータルミュージアムはっち、秋田アトリオンなどを訪れる度ともうらやましく思います。

新しい展示場建設が難しいならば、パネル展示中心で高さはなくてもヒロロにパネルを多く配備し展示場を作るとか、弘前市立博物館や弘前れんが倉庫美術館の展示室の一部を一般市民に貸し出すなど、工夫が必要だと思います。ご検討をお願いします。

- ・私たちの会は、参画センターを利用し、とてもうまくいってました。勉強会のあとは土手町でランチしたり、買い物したりで少しは土手町の活性化に貢献できていたはずですが、多分、他の会の人たちもそうだったはず、ヒロロは静かに勉強する場所ではありません。できれば、又、参画センターを復活させてほしいです。センターを閉じた理由も告げられず、今もそのままあるのはなぜなのか？もっと市民（利用者）の声を聞いてほしかったと強く思っています。なんとかなりませんか。
- ・三年前に先生が亡くなり、弘前教室が無くなりました。弘前在住で、個人で考えた物を月1度検討するために会場を使用しています。今後、工事中の会場確保に困っています。期間も長いので車で送迎しなければ集まれません。こちらの問題ですが、動きがとれません。

【文化施設の運営について】

- ・市には新しく開館したれんが倉庫美術館をはじめ、音響的にも誇れる市民会館など、様々な施設がありますが、それらが市民の使いやすい、気軽に借りられる料金になっているかというところ少々疑問です。以前も担当の方と話した事がありますが、他都市を参考にという回答をいただきました。

どこの都市を参考にしたかわかりませんが、所得水準や人工構成・比率など、弘前市の実態を踏まえて考えられたものと思えません。

文化芸術の振興を図るためには、財政負担が原因でやむなく解散している団体がある現状を考えると、急務でないかと考えます。

- ・文化センターの駐車場について、せめて講師の先生方の料金が無料であれば助かります。
- ・市民会館、文化センター等、公共施設を市民団体が使いやすいような配慮が欲しい。ひと頃、使い方に関して非常に不自由なしばり、要求が施設の運営管理者から、借りる団体に言われた時期があった。

使用者が快く使えるようホールが人を育て、音楽・舞台文化を育てていくものだということを念頭に置いていただければと願っております。弘前の文化発展のため、みんなで頑張りたいものです。

- ・昔の文化団体がどのような取り組みとして来たかを調べ現在に生かせることが出来ないかを議論、研究をし、その中から1つでも探し、実践できるようにするグループがあれば良いと思う。
- ・毎年、文化施設の使用にあたりまして細かいご配慮にとっても感謝しております。特に、施設予約に関するご配慮と資料提供、さらに当日の職員の皆さんの適切なご提示に心から

感謝しております。どうぞよい活動ができますよう、心から期待しております。ありがとうございます。

- ・山梨県立美術館は、ミレーの作品を公費で多く買い、その購入代金を回収できるくらい人を集めた。れんが倉庫美術館も頻繁に作品を入れ替えて市民がたくさんの作品に触れる機会を増やしてほしい。具象画、抽象画の展示バランスをよく研究してほしい。博物館の倉庫に眠っている作品をもっと有効活用してほしい。
- ・弘前れんが倉庫美術館の使用はどんな人達が使用できるのか全く分からない。
- ・コロナの流行でせっかくの弘前れんが倉庫美術館が活動減少？の様で残念です。一日も早く終息して鑑賞出来る事を望んでおります。金沢の二十一世紀美術館や十和田現代美術館の様な展示等期待しています。又、駐車場がないのでとても残念です。山道町側に出来ないものでしょうか、建物の後ろであればもっときがるに行こうと思うのでは？と。私はそうしてくれれば何度でも行きます。
- ・市施設の職員の方の対応、ご配慮にはいつも感謝しています。

【その他】

- ・コロナ時代になり、イベントを開催するにあたり、市としてのコロナ対策はどのように考えているか知りたい。例えば、アクリル板を無料で貸し出すとか。
- ・弘前市の公共施設予約システムで仮予約ができることは素晴らしいのですが、仮予約できる施設が限られていることは残念です。(50 施設中 19 施設、38%)
しかも、その状況がこの5年間変わっておらず、増える気配もありません。増やせない事情はどこにあるのでしょうか？増やす努力はされているのでしょうか？

そのほか、様々なご意見・ご要望をいただきました。いただいたご意見・ご要望は可能な限り今後の市政に活かしてまいります。

アンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。